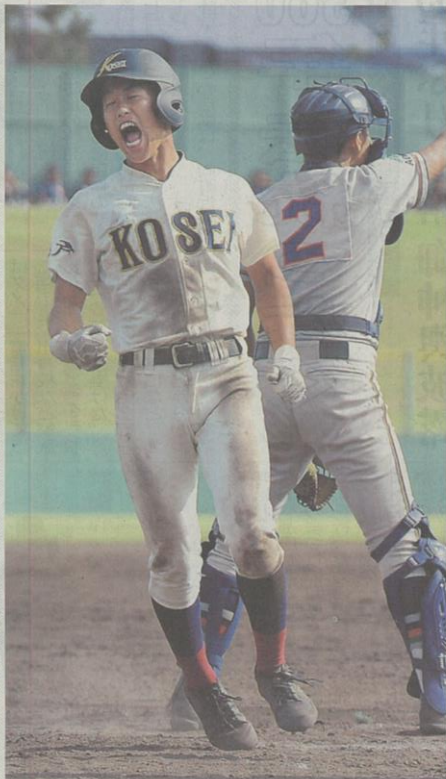


# 光星底力 逆転勝ち



【八工大―八学光星】8回裏、八学光星2死一、二塁、成田の中前打で二走・吉田が生還、5-4と勝ち越す。捕手・工藤=県営

## 工大 4点差守れず

八工大  
111 1000015  
000 40000375  
八学光星  
(工)古屋敷十藤  
(学)向井、成田、喜藤  
▽本塁打 花房、馬場(工)  
▽二塁打 奥山、佐藤(工)  
田中、成田、馬場(学)  
▽暴投 向井2(学)▽捕逸 工藤(工)

### 8回打線奮起 好投手攻略 光星

【評】実力校同士の対決。八回に打線がつかつた八学光星に軍配が上がった。0-4の四回、花房、馬場の本塁打などで点を追いついた。八回は2死一、二塁から成田の適時一塁打で勝ち越

【ポイント】  
運んだ。二走・吉田が間切れで敗れており、三塁、勝ち越し。なおも二、三塁の好機で、四回と同点の2点本塁打を放った馬場が、左越えの2点適時打を放った。点差を3点に広げ、勝利を大きく引き寄せた。  
前回の対戦した秋季リーグ戦は八工大に八回時

【ポイント】  
す、馬場の左越え二塁打をとりえ、四回まで打て差を広げた。八工大は相手の先発投手をとりえ、四回まで毎回1点ずつ加点した。九回は似鳥らの3連打で1点をかせしたが、最後は併殺で打ち取られた。

監督「粘り負けた」  
○：序盤先行しながら逆転負けした八工大の監督は「粘り負け、バントを送るところをやらなかったり、やるべきことができなかつた。向こうの方が粘りがあつた」と残念がった。直球最速148km/hの主戦古屋敷は8四死球と制球に苦しむ7安打7失点。四球やエラーで無駄な走者を出してしまつた。しっかり抑えられるピッチャーになりたい」と話した。身長178cm、体重75kgの自身の体格に「触れ」また体が小さい。冬場に走り込みやウォーターレーニングを積み、もっと体を大きくしたい」と再起を誓った。

も活躍。一変化球、直球ともカウントを取れた。焦らず投げられた」と満足を語った。  
九回には三連打を浴びて1点をかせられ、なおも1死一、二塁のピンチを迎えたが、最終打者を併殺に打ち取った。仲井監督は「甲子園の悪夢が頭をよぎったが、おつかひ」して、つなぐ春のセンバツへとつなぐ大会向けに、同地区のライバルを破っての白星は大きい。「次も必死にがんばるだけ」と監督は前を見据えた。(山口拓郎)



秋季県立高校野球選手権は第9日の18日、県営、黒石運動公園、六戸メイルの3球場で8試合を行つた。夏の甲子園出場校の八学光星は、同点で迎えた八回に打線がつかつたが7-5で八工大に勝利、準々決勝進出を決めた。東奥義塾は延長十回、佐藤珠が適時打を放ち4-3で青森北にサヨナラ勝ちした。そのほか野辺地西、弘前東、大森、青森山田、弘前工、八戸西が勝ち進みベスト8入りを決めた。第3日の19日は県営、黒石運動公園で準々決勝4試合を行い、4強が出そろつた。(本紙取材班)

#### きょうの試合

- (左のチームが一塁側)  
▷準々決勝  
◇黒石運動公園  
野辺地西―八学光星(10・0)  
東奥義塾―弘前東(12・30)  
◇県営  
大湊―青森山田(10・0)  
弘前工―八戸西(12・30)